



西村証券

チーフストラテジスト
門司総一郎の

ウィークリーレポート

2019年
12月23日
発行

第10回 「シャーロック・ホームズと吠えない犬」

～動かないものの大切さ～

初めに

金融市場では大きく動いている時に注目されるものが、動きが止まったとたん、注目されなくなってしまうことがよくあります。しかしこの注目されなくなったものの中に、投資のヒントが隠されていることは少なくありません。

今回は動かないものの大切さを取り上げます。尚、西村証券では入社2年目までの若手社員を対象に、定期的に勉強会を開催しています。今回の「動かないものの大切さ」は12月12日の勉強会で取り上げたテーマです。

シャーロック・ホームズと吠えない犬

動かないものの大切さを示した好例として名高いのが、コナン・ドイルが生んだ名探偵シャーロック・ホームズが登場する「白銀号事件」です。この作品中で注意すべき点を問われたホームズは犬が吠えなかったことを指摘しますが、これが事件解決の1つのポイントでした。ネタバレになるのでここまでにしますが、関心を持たれた方はお読みになってください。

吠えない犬を探せ

ここからが本題です。金融市場にも吠えない犬はいますが、見つければ大きな投資のチャンスになることがあります。「金融市場の吠えない犬を探せ」これがこの勉強会の課題でした。

リーマンショックとトルコ危機

勉強会で私が吠えない犬の例として挙げたのが、2008年のリーマンショックと2018年のトルコ危機です。リーマンショックの時、米国の金融アナリストは、「銀行は全て潰れる」と騒ぎ立てました。その後、公的資金の注入が決定され、潰れないことが明らかになっても、増資に伴う希薄化を理由に銀行株の売りを勧めました。しかし資本増強が進むとアナリストは何も言わなくなり、世界の株式市場が上昇に転じたのは、それからしばらくしてのことだったと記憶しています。

2018年の夏、米国との関係悪化などをきっかけにトルコリラが急落する場面がありました。このトルコリラの下落は瞬間に他の新興国通貨に飛び火、更に日本など先進国の株式市場下落をも誘発して、一時はトルコ危機という言葉が連日メディアを賑わす状況になりました。その後トルコ政府が景気よりインフレと通貨の安定を重視する政策に切り替えたことからトルコリラは落ち着きを取り戻しましたが、日本株は回復していなかったため、ちょうど昨今の今頃ですが、「トルコ危機が収まった分だけでも日本株は上昇しておかしくない」と顧客に説明していたことを覚えています。なお、日本株は今年に入って回復に転じました。

吠えない犬の投資戦略

勉強会ではこの2例の他に、2013年の「米国の財政の崖」や、最近の「逆イールドと景気後退の関係」に関する考察も吠えない犬の例として挙げられました。この4例はいずれも危機的な状況の後、あるいはそうした状況が懸念された後に当たるので、吠えない犬はこういった時期に現れやすいと言えます。これは悪材料がなくなったにもかかわらず、投資家がまだ強気に転じ切れていないため、株式市場が上昇しやすいということでしょう。

国債暴落はあるか

最後に1つ勉強会で出た意見を紹介しておきます。「長年日本の財政赤字については国債の暴落を懸念する声があったが、最近はそうした声がほとんどない。」これも吠えない犬ではないかというものでした。先ほどの4例と悲観・楽観が逆ですがこれも吠えない犬と言えます。国債暴落のリスクには注意すべきだと思います。

年内のウィークリーレポートは今回が最後になります。

新年第1号は1月14日からの予定です。本年はお世話になりました。良いお年をお迎えください。

西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES CO., LTD.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等はご遠慮ください。